

園長通信

(令和7年度8月号)

幼稚園型認定こども園高槻双葉幼稚園
園長 岡部 祐輝

【夏の学び】

幼稚園は1学期が終わり、夏休み期間（1号預かり/2号クラスの子どもたちは登園しています）となりました。連日の猛暑皆様、ご体調など崩されていないでしょうか。

8月も毎日かなりの猛暑になる見込みです。水分補給や直射日光を避ける等対策の上、皆様安全に毎日をお過ごしいただければと思います。

この夏期の期間、幼稚園職員は、保育担当、保育関係事務などをはじめ、研修受講や学会発表、自己研鑽など、学期中には十分に時間を確保しにくいことにも向き合う時間をとらせていただいています。本年度の園の重点項目の一つに、**「子どもとのかかわりをはじめ、コミュニケーションスキルに関する園内外の研修を進め、「他者に伝える」ことに活用できる力を養う」**というものを設定しています。このスキルを培うためには、いわゆる受け身の講義型の研修を聞いているだけでは、培うことが難しく、「主体的」、「対話的」、「自分事」になる学び方をすることが私たち大人にとっても大変重要です。そこで園内研修などを中心にワークを行い、互いに子どもや他者とのかかわる際にどのようなことを意識し配慮し、取り組むことが重要かなどを考える機会となっています。

今回はこの「コミュニケーション」ということを考えていきたいと思います。

【子ども理解 他者理解のために大切なこと】

よく、「話せばわかるって!」と言いますが、果たして「話せば分かり合える」のでしょうか。

様々な書籍や研究などがありますが私が確認した限りでは、100%分かり合うことは困難であるというものが多くありました。当然理由はあり、**「そもそもの個が違う」、「経験してきたことが違**

う」、「同じ事実を見ても解釈が異なる」など多くの理由が書かれていました。もしこの「話せばわかる」にとらわれすぎると、「自分は話した（伝えた）のにわからない人」に対して、いら立ちや時には「もういいわ」と排除してしまう危険性も考えられます。また、これもよく聞かれますが、**「普通はさ」、「～するってどう考えたっておかしくない？」**などの発言があります。もちろん、「一般論」や「社会通念上」などのことはありますが、「普通はさ～」の「普通」は誰にとっての普通でしょうか。何をもって普通と定義できるのでしょうか。

おそらくその「普通はさ～」の普通は、「あなたにとって」となるかと思います。自分が「普通」となると、コミュニケーションをとる相手方が「普通ではない」、「異常」ということになり、より冷静な議論の余地がなくなってしまいます。

「自分と他者の見え方、感じ方は異なる」ということを前提にし、相手のとのコミュニケーションをスタートすることは極めて重要と考えます。このスタート地点から第一歩目となるアクションは、「相手にはこの事実・事象がどう見えているのだろうか？」ということになるかと思います。

同じ事実を見ていても、人はそこに経験、感情、状況、関係性などを持ち込み、「解釈」を働かせます。普段は気にならないことでも、思い通りにいかずイライラしているときに、事情がおこると、気になってしまうなどはまさにそういう状況かと思います。また、数字の6と9は見える角度により見え方が異なります。Aさんは「6」といい、Bさんは「9」といいます。【引用：(出典)「対話と決断」で成果を生む話し合いの作法,中原淳,PHP研究所、2022】しかし、これも相手の見え方に回り込むと一定納得できることとなります。

先日TVやネットで話題となっていました、**「8時10分前は何時何分をさすか？」**というものがありました。「8時8分くらい?」、「7時50分じゃない?」・・・いろいろな解釈が飛び出すかと思いますが、もし解釈が様々になると、皆さん集合が時間通りできなくなります。どうすればずれないでしょうか?

おそらく、「7時50分に正門の前に集合ね」など時間を明示すればよりずれなくなると考えられます。このように主観的な捉えになるものはずれやすく、唯一無二のもの（例：富士山）や数値的な物はずれにくいことが言われています。

「今、目の前に見えているものを、子どもや相手はどう見ているのかな?」と、子どもや相手側に回り込み、見ようとすることで、自分だけの考え方とは異なる見え方があると思います。

このようなまなざしや思考をもとに、子どもや他者が何を見て何を感じ、考えているのかということを、引き続き経験的に学び、研鑽していきたいと思います。

